

令和2年度 ひきこもりに関する実態把握調査
報告書

令和2年8月

高知県地域福祉部地域福祉政策課

－目次－

第1章 調査目的・調査概要	1
1.1 調査の目的	1
1.2 調査実施概要	1
第2章 調査結果(民生委員・児童委員のかかわりの状況)	4
(1) 担当する地区での「ひきこもりの人」の有無	5
(2) ひきこもりの人の支援で困っていること	6
(3) ひきこもりに関する支援策で必要と思われるもの	7
第3章 調査結果(ひきこもりの人の個別状況)	8
3.1 単純集計結果	8
(1) 「ひきこもりの人」の人数	8
(2) 「ひきこもりの人」の性別	10
(3) 「ひきこもりの人」の年齢	11
(4) 「ひきこもりの人」の同居者の有無	12
(5) 同居者のひきこもりの状況	12
(6) ひきこもりの方の状況	13
(7) 民生委員・児童委員が「ひきこもりの人」を知ったきっかけ	13
(8) その方のひきこもっている期間	14
(9) その方がひきこもりになったきっかけ	15
(10) 現在の支援の状況	18
(11) 「ひきこもりの人」のいる世帯の暮らしぶり	18
(12) 「ひきこもりの人」自身や同居家族が求めていると考えられる支援内容	19
3.2 クロス集計結果(年齢別、同居の有無)	20
(1) 「年齢別」該当する方の状況	20
(2) 「年齢別」ひきこもっている期間	21
(3) 「年齢別」ひきこもりになったきっかけ	22
(4) 「同居の有無別」現在の支援の状況	23
(5) 「年齢別」ひきこもりの人自身や同居家族が求めていると考えられる支援内容	24
第4章 参考資料	26
4.1 調査票(総括票)	27
4.2 調査票(個別票)	29

第1章 調査目的・調査概要

1.1 調査の目的

本調査は、県内で活動する民生委員・児童委員・児童委員の方を対象としたアンケート調査により、ひきこもりの人の概数等を把握し、県及び市町村において施策展開を検討していくための基礎資料とすることを目的として実施した。

1.2 調査実施概要

<調査対象>

・県内に在籍する民生委員・児童委員

<調査概要>

調査対象者に直接調査票等を送付し、自らが担当する地区のひきこもりの人の状況等について回答してもらう(全数調査)。

送付及び回収は全て郵送により行い、7月上旬現在回答のないものについては、督促状を送付した。なお、調査基準日は令和2年6月1日時点。

<調査実施期間>

- ・調査票発送: 令和2年6月24日
- ・調査票回収締切: 令和2年7月15日

<調査業務委託先>

株式会社工業市場研究所

<調査票回収状況(全体)>

送付数	2,159件
回収数	1,935件
回収率	89.6%

<留意点>

- ・回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出し、少数第2位を四捨五入しているため、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- ・複数回答の設問の場合、回答は選択肢の有効回答数に対しそれぞれの割合を示しており、その比率の合計が100.0%を超える場合がある。

○この調査における「ひきこもりの人」の定義

この調査では、義務教育修了後から64歳以下の方のうち、下記に該当する方を「ひきこもりの人」として調査の対象とします。

「様々な要因の結果として社会的参加※1を回避し、原則的には6箇月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態※2の方。なお、重度の障害、疾病等で外出できない方は除きます。」

※1 就学や非常勤職を含む就労、家庭外での交遊などを指します。

※2 他者と交わらない形での外出をしている場合を含みます。

この状態に類似していると思う場合は、「ひきこもりの人」として回答してください。

「ひきこもりの人」の判断のフローチャート

1. その方は、普段どのくらい外出していますか。

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| ① 普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する | ⑤ 仕事や学校で平日は毎日外出する |
| ② 普段は家にいるが、近所のコンビニ等には出かける | ⑥ 仕事や学校で週に3~4日外出する |
| ③ 自室からは出るが、家からは出ない | ⑦ 遊び等で頻繁に外出する |
| ④ 自室からほとんど出ない | ⑧ 人付き合いのためにときどき外出する |
| | ⑨ その他 |

①~④のいずれかに該当

⑤~⑨のいずれかに該当

2. その方がその状態となってどれくらい経過していますか。

- ① 6箇月未満
② 6箇月以上

① 6箇月未満

対象外

② 6箇月以上

対象外

3. その方は、次の①から③までの方に該当しますか。

- ① 自営業・自由業を含め、現在、何らかの仕事をしている方
② 重度の障害、疾病等で外出できない方
③ 専業主婦・主夫、家事手伝いの方、妊娠、介護・看護、出産・育児をしている方で、最近6箇月間に家族以外の人と交流のある方

①~③のいずれにも該当しない

①~③のいずれかに該当

対象外

ひきこもりの人

＜内閣府の調査概要(参考データ)＞

当報告書には、類似調査との比較分析のため、内閣府が実施した「平成 27 年生活状況に関する調査」、「平成 30 年若者の生活に関する調査」の調査結果(抜粋)を記載している。

調査の概要は以下のとおり。

調査名	平成 27 年 若者の生活に関する調査	平成 30 年 生活状況に関する調査
調査目的	「ひきこもり」に該当する子供・若者の人数やそのきっかけ、必要としている支援内容などについて調査することで、「ひきこもり」を始めとする困難を有する子供・若者への地域支援ネットワークの形成促進につなげることを目的として実施。	ひきこもり状態にある者の推計値や、ひきこもり状態になってからの期間、ひきこもり状態となったきっかけ等について調査し、40 歳以上でひきこもり状態にある者の状況等について把握することで、子供・若者がひきこもり状態となることを防ぐために必要な施策や、ひきこもりの長期化を防ぐための適切な支援を検討するための基礎データを得ることを目的として実施。
調査対象	全国の市区町村に居住する満 15 歳から満 39 歳の者、本人 5,000 人と同居する成人家族	全国の市区町村に居住する満 40 歳から満 64 歳の者、本人 5,000 人と同居する成人
調査方法	調査員による訪問留置・訪問回収	調査員による訪問留置・訪問回収
調査期間	平成 27 年 12 月	平成 30 年 12 月
ひきこもり群の定義	「Qふだんどのくらい外出しますか。」について、 【趣味の用事のときだけ外出する】と回答した者を『準ひきこもり』と定義し、 【近所のコンビニなどには出かける】、【自室からは出るが、家からは出ない】、 【自室からほとんど出ない】と回答した者を『狭義のひきこもり』と定義し、 『準ひきこもり』と『狭義のひきこもり』の合計を『広義のひきこもり』と定義。	

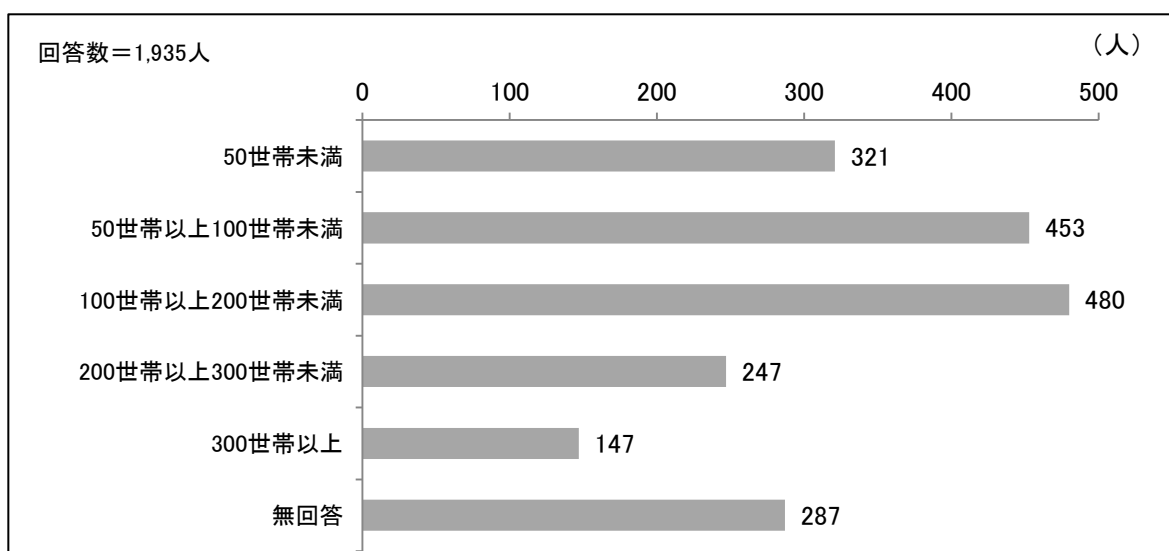
第2章 調査結果 (民生委員・児童委員のかかわりの状況)

■市町村別の回答者数(民生委員・児童委員数)

No.	市町村名	回答者数 (人)	割合 (%)
1	高知市	548	28.3
2	室戸市	65	3.4
3	安芸市	65	3.4
4	南国市	115	5.9
5	土佐市	65	3.4
6	須崎市	65	3.4
7	宿毛市	55	2.8
8	土佐清水市	57	2.9
9	四万十市	114	5.9
10	香南市	87	4.5
11	香美市	93	4.8
12	東洋町	9	0.5
13	奈半利町	11	0.6
14	田野町	9	0.5
15	安田町	13	0.7
16	北川村	6	0.3
17	馬路村	7	0.4

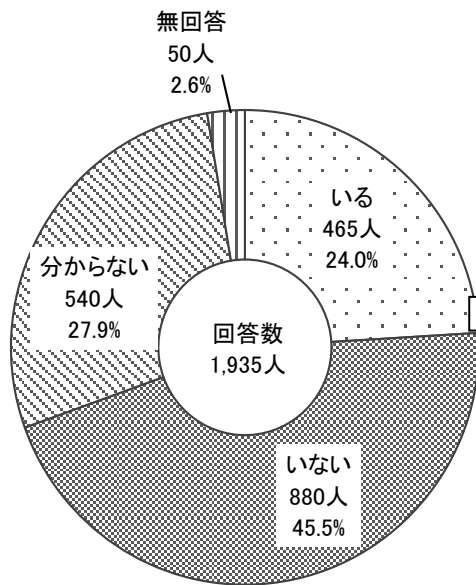
No.	市町村名	回答者数 (人)	割合 (%)
18	芸西村	13	0.7
19	本山町	21	1.1
20	大豊町	40	2.1
21	土佐町	23	1.2
22	大川村	7	0.4
23	いの町	89	4.6
24	仁淀川町	45	2.3
25	中土佐町	35	1.8
26	佐川町	42	2.2
27	越知町	24	1.2
28	橋原町	12	0.6
29	日高村	18	0.9
30	津野町	23	1.2
31	四万十町	87	4.5
32	大月町	22	1.1
33	三原村	11	0.6
34	黒潮町	39	2.0
	全体	1,935	100.0

■民生委員・児童委員が担当する地区の世帯数



(1) 担当する地区での「ひきこもりの人」の有無

問1 あなたが担当する地区に、現在「ひきこもりの人」はいますか。



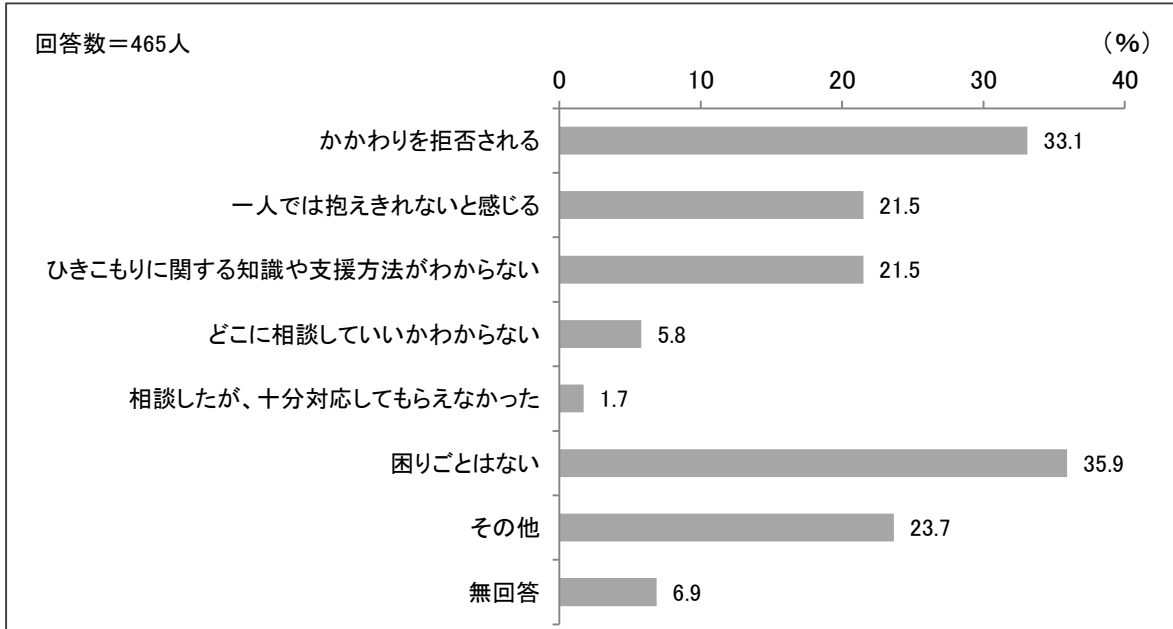
「いる」と回答した人に対して把握している「ひきこもりの人の人数」を聞いたところ、高知県全体で **692人**であった。
※詳細は第3章へ。

担当地区におけるひきこもりの人の有無については、「いる」が 24.0%、「いない」が 45.5%となっている。

なお、「分からない」が 27.9%となっており、担当地区にひきこもりの人がいるかどうかを把握できていない民生委員・児童委員が一定数いることがうかがえるが、この理由としては、「家族が情報を開示したがない」「最近民生委員・児童委員になったばかりで担当地区の状況をまだ良く把握できていない」といったものがあった。

(2) ひきこもりの人の支援で困っていること

問2 問1で「1いる」を選択した場合、ひきこもりの人の支援で困っていることはありますか。
(複数回答可)



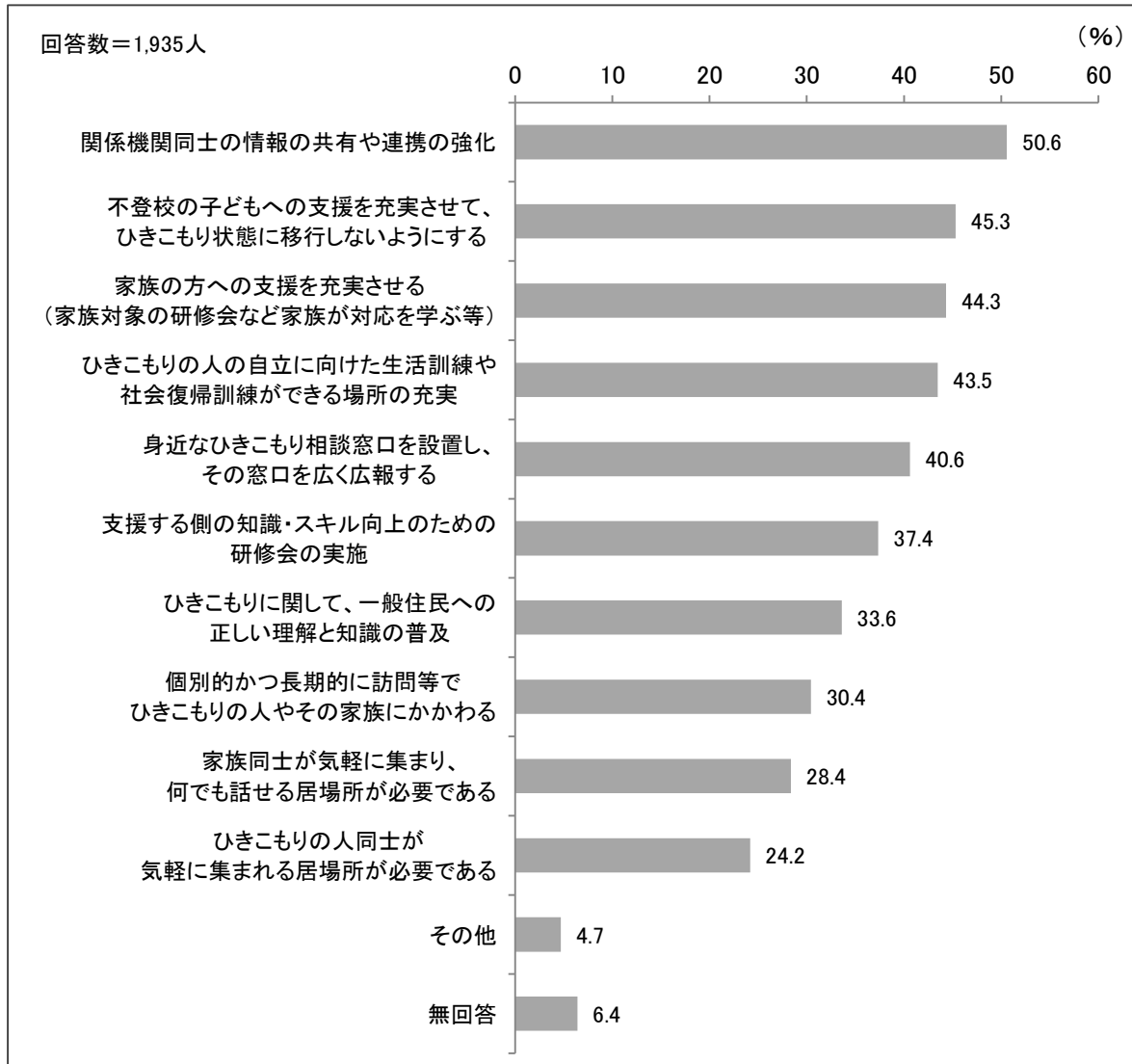
困っていることとして多く挙げられているのが、「かかわりを拒否される」で 33.1%となっており、以下「一人では抱えきれないと感じる」と「ひきこもりに関する知識や支援方法がわからない」がそれぞれ 21.5%となっている。

なお、ひきこもりの人への支援を行う中で「困りごとはない」との回答は 35.9%であった。

「その他」については、「自身がどの程度関わったらよいのか、判断が難しい」といった回答が特に多く、その他には「かかわりたいとは思いますが、そのきっかけがない」「家族と同居しているので口を出しづらい」「そもそも、ひきこもりなのかどうかもはっきりしない」といったものがあった。

(3) ひきこもりに関する支援策で必要と思われるもの

問3 ひきこもりに関する支援策で、民生委員・児童委員の活動や行政に必要と思われるものを教えてください。(複数回答可)



「ひきこもりに関する支援策で、自身の活動や行政に必要と思われるもの」については、「関係機関同士の情報の共有や連携の強化」が 50.6%と最も多くなっている。

以下「不登校の子どもへの支援を充実させて、ひきこもり状態に移行しないようにする。」が 45.3%、「家族の方への支援を充実させる(家族対象の研修会など家族が対応を学ぶ等)」が 44.3%、「ひきこもりの人の自立に向けた生活訓練や社会復帰訓練ができる場所の充実」が 43.5%、「身近なひきこもり相談窓口を設置し、その窓口を広く広報する」が 40.6%となっている。

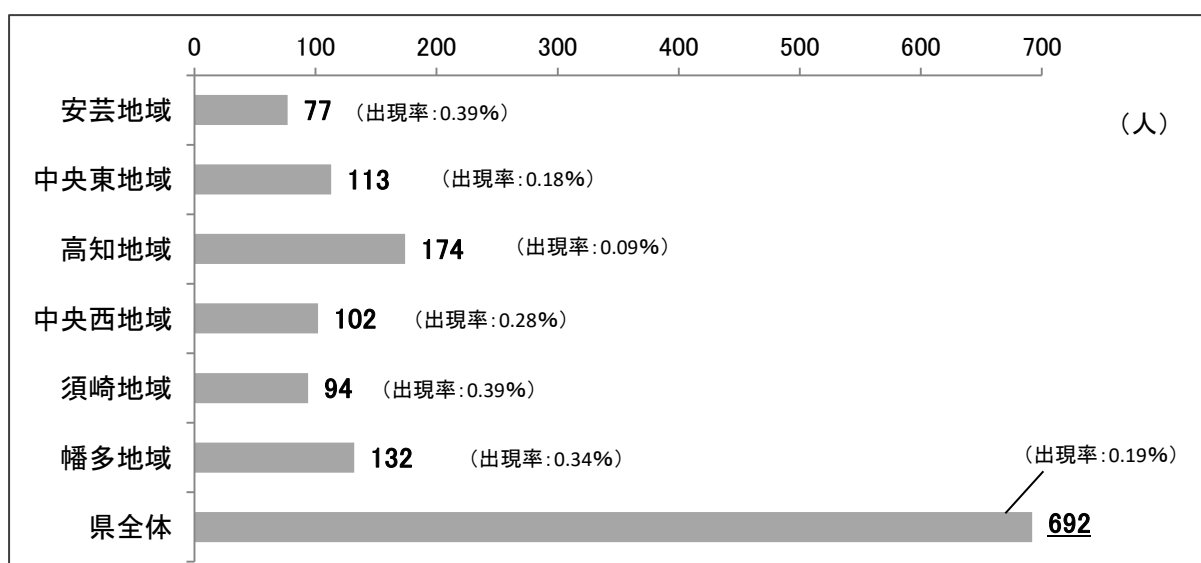
第3章 調査結果(ひきこもりの人の個別状況)

3.1 単純集計結果

(1) -1 「ひきこもりの人」の人数

今回の調査において、「ひきこもりの人」の人数は **692人**であった。

また、人口当たりの該当者の割合は **0.19%**(令和2年6月1日時点高知県推計人口の15歳～64歳までの人口369,266人に占める割合)であった。

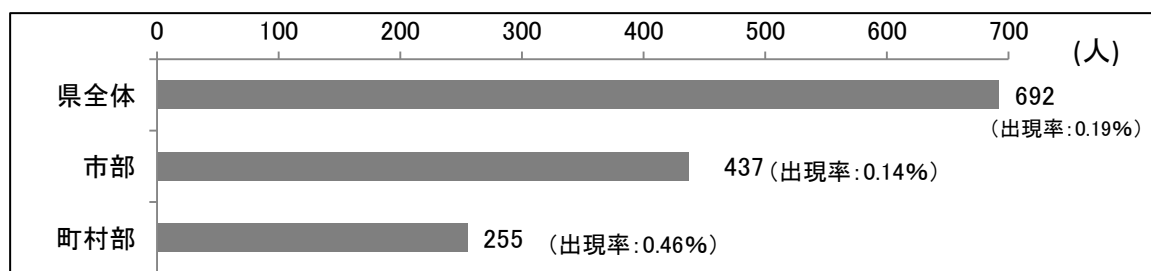


※各地域の市町村分類は以下のとおり。(保健所単位で分類)

地域	市町村名
安芸	室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、芸西村
中央東	南国市、香南市、香美市、本山町、大豊町、土佐町、大川村
高知	高知市
中央西	土佐市、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村
須崎	須崎市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町
幡多	四万十市、宿毛市、土佐清水市、黒潮町、大月町、三原村

(1) -2 市部・町村別ひきこもりの人数

町村部の出現率が0.46%であるのに対し、市部の出現率0.14%であり、市部ではひきこもりの人の把握が難しいことがうかがえる。



【参考】 広義のひきこもり群の出現率及び推計数

■ (内閣府『平成 27 年 若者の生活に関する調査 (満 15 歳～満 39 歳が対象)』より)

			該当人数 (人)	有効回収率に占める割合 (%)	全国の推計数 (万人)
広義のひきこもり	準ひきこもり	ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	33	1.06	36.5
	狭義のひきこもり	ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	11	0.35	12.1
		自室からは出るが、家からは出ない又は自室からほとんど出ない	5	0.16	5.5
	計			49	1.57

広義のひきこもり群の出現率は 1.57%であり、推計数は 54.1 万人であった。

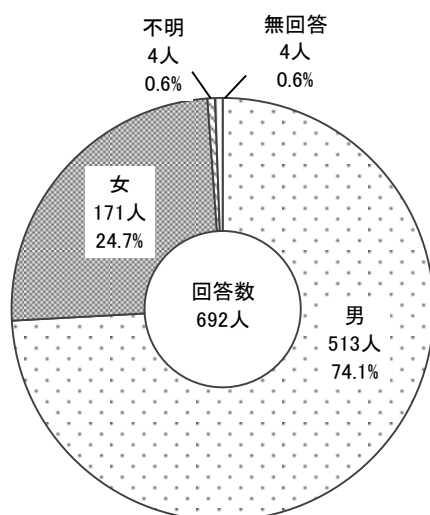
■ (内閣府『平成 30 年 生活状況に関する調査 (満 40 歳～満 64 歳が対象)』より)

			該当人数 (人)	有効回収率に占める割合 (%)	全国の推計数 (万人)
広義のひきこもり	準ひきこもり	ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	19	0.58	24.8
	狭義のひきこもり	ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	21	0.65	27.4
		自室からは出るが、家からは出ない又は自室からほとんど出ない	7	0.22	9.1
	計			47	1.45

広義のひきこもり群の出現率は 1.45%であり、推計数は 61.3 万人であった。

(2) 「ひきこもりの人」の性別

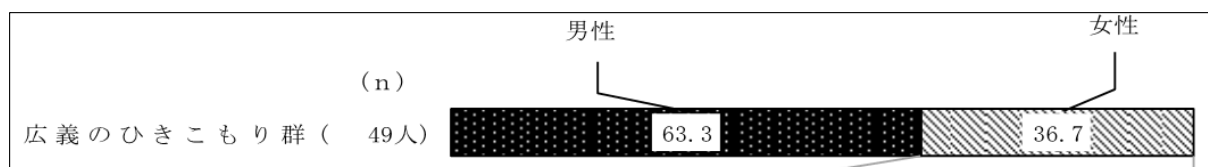
問1 該当する方の性別を教えてください。



ひきこもりの人の性別については、「男」が74.1%、「女」が24.7%となっており、男女比は概ね3:1となっている。

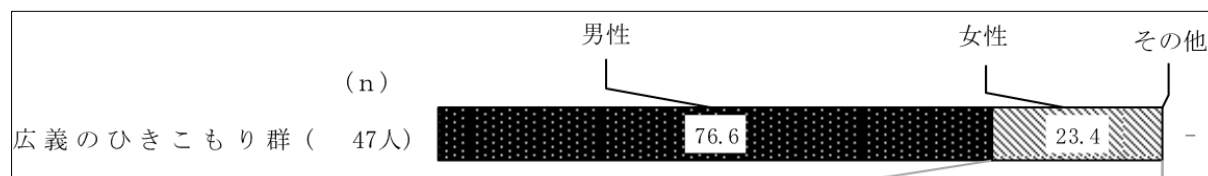
【参考】

- (内閣府『平成27年 若者の生活に関する調査(満15歳～満39歳が対象)』より)



上記平成27年度の内閣府調査では、広義のひきこもり群の男女の割合は、男性は63.3%、女性は36.7%であった。

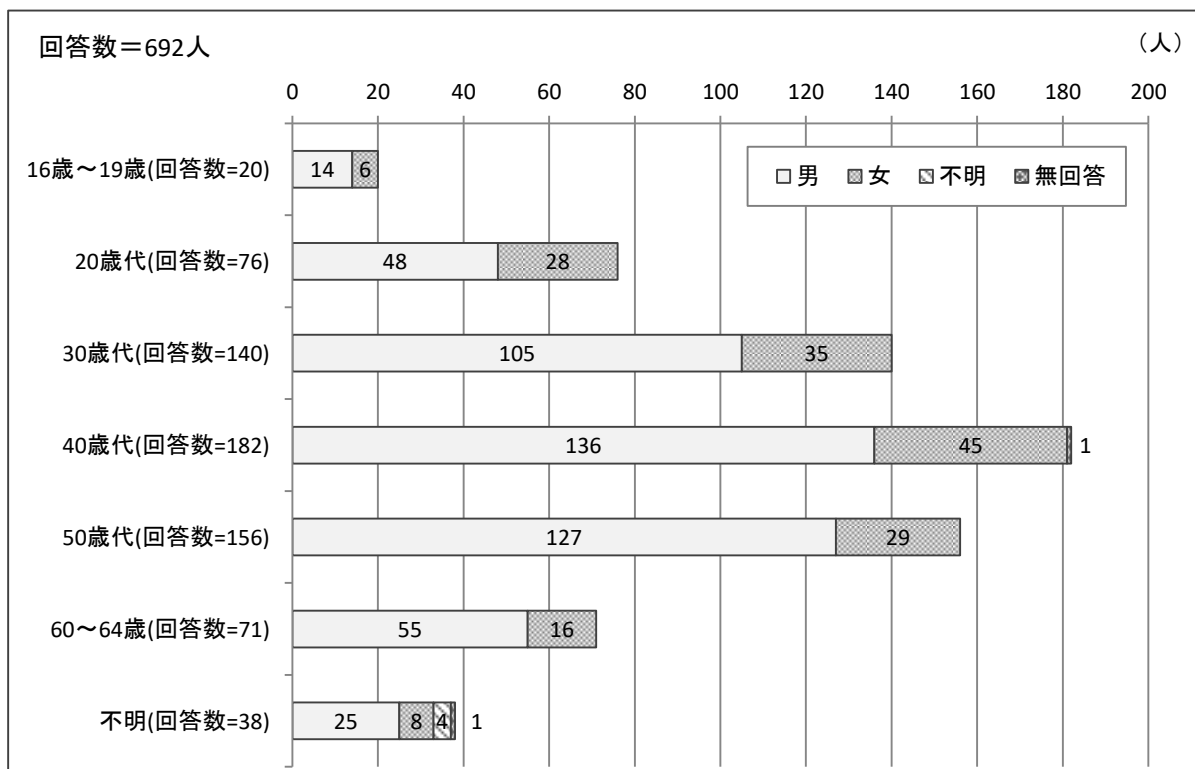
- (内閣府『平成30年 生活状況に関する調査(満40歳～満64歳が対象)』より)



上記平成30年度の内閣府調査では、広義のひきこもり群の男女の割合は、男性は76.6%、女性は23.4%であった。

(3) 「ひきこもりの人」の年齢

問2 該当する年齢を教えてください。



ひきこもりの人の年齢(年代)は、「40歳代」が182人と最も多く、以下「50歳代」が156人、「30歳代」が140人となっている。

ひきこもりの人は、就職氷河期世代(34～49歳)に多く見られることがうかがえる。

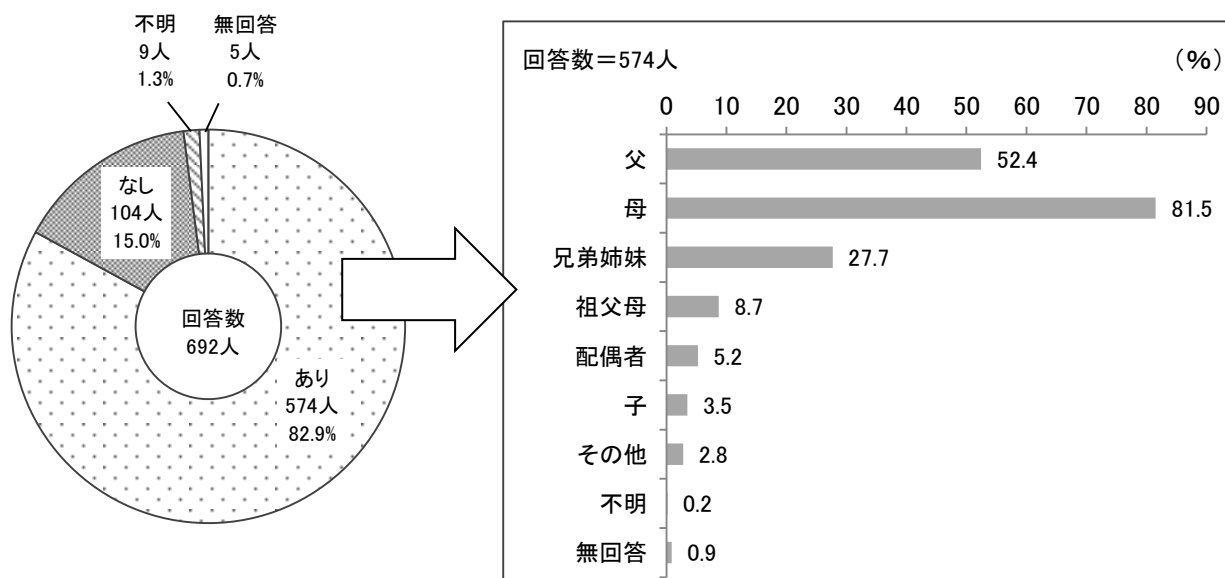
また、ひきこもりの人の性別／年齢別の状況について、男女で大きな違いは見られないものの、50歳代以上では男性の比率がやや高く、逆に20歳代以下では女性の比率がやや高くなっていることがうかがえる。

なお、本調査においては、「義務教育終了後から64歳以下の方」を対象としており、義務教育課程の者および65歳以上は調査対象に含めていない。

(4) 「ひきこもりの人」の同居者の有無

問3 その方の家族の状況について教えてください。同居者はいますか。

問4 (1) 同居者がいる場合、その方はどなたと一緒に住んでいますか。(複数回答可)



同居者の有無については、「あり」が 82.9%、「なし」が 15.0%となっている。

同居者の内訳は、「母」が 81.5%と最も多く、以下「父」が 52.4%、「兄弟姉妹」が 27.7%となっている。

(5) 同居者のひきこもりの状況

問4 (2) 同居家族の中に、その方以外にひきこもり状態にある方がいれば、教えてください。

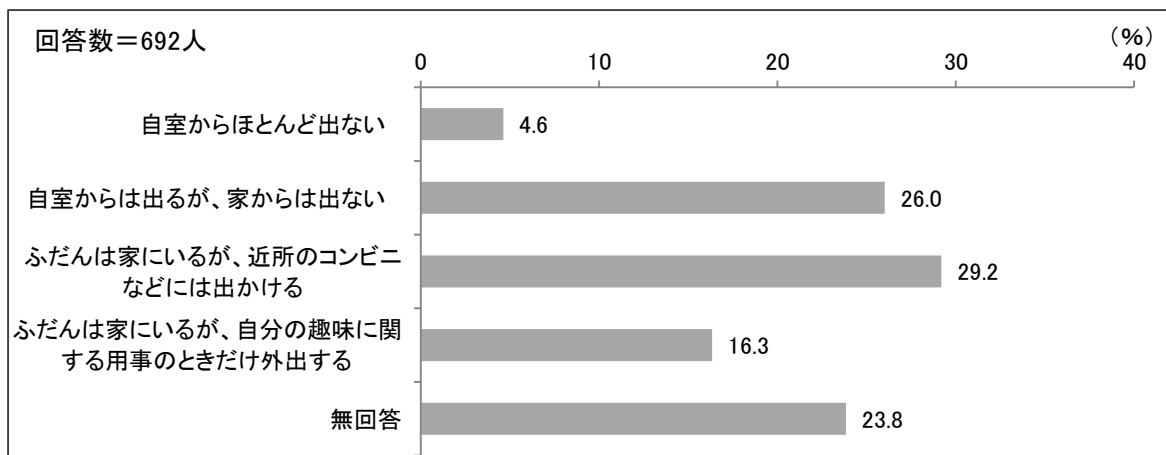
(複数回答可)

ひきこもり状態にある同居者	人数(人)	割合 (%)
父	4	0.7
母	10	1.7
兄弟姉妹	47	8.2
祖父母	0	0.0
配偶者	4	0.7
子	7	1.2
その他	38	6.6
無回答	468	81.5
全体	574	100.0

ひきこもり状態にある同居者は、「兄弟姉妹」が 8.2%であった。

(6) ひきこもりの方の状況

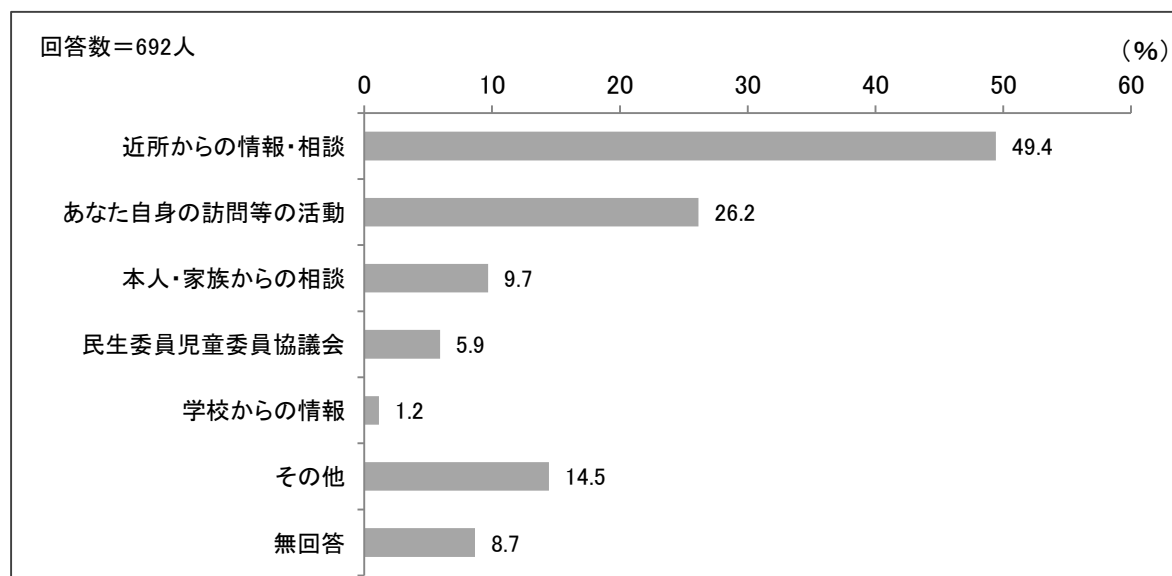
問5 その方の状況を教えてください。



ひきこもりの人の状況は、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が29.2%と最も多く、以下、「自室からは出るが、家からは出ない」が26.0%、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」が16.3%となっている。

(7) 民生委員・児童委員が「ひきこもりの人」を知ったきっかけ

問6 あなたがその方の存在を知ったきっかけについて教えてください。(複数回答可)

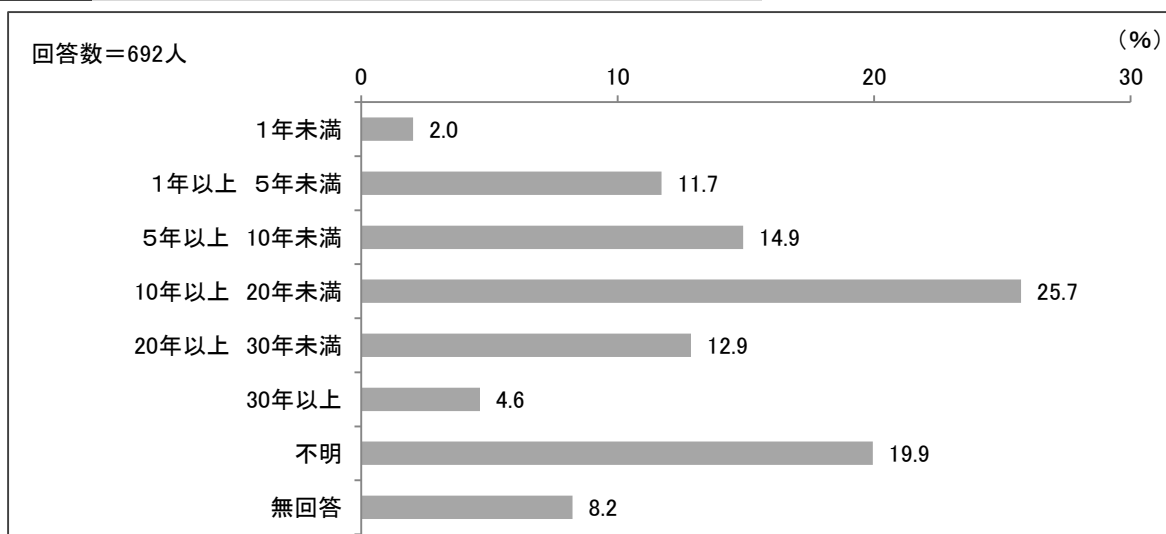


(民生委員・児童委員が)ひきこもりの人の存在を知ったきっかけについては、「近所からの情報・相談」が49.4%と最も多く、以下、「あなた自身の訪問等の活動」が26.2%、「その他」が14.5%、「本人・家族からの相談」が9.7%となっている。

なお、「その他」については、「(ひきこもりの人が)近所に住んでいるため元々知っていた」といった回答が多く、他に「町内会等の活動の際に聞いた」「自身の家族と繋がりがある人なので知っていた」といったものがあった。

(8) その方のひきこもっている期間

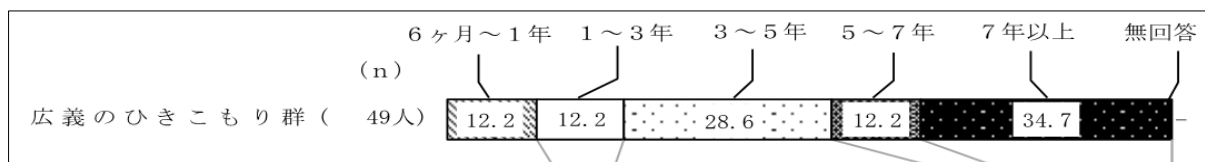
問7 その方のひきこもっている期間について教えてください。



ひきこもっている期間は、「10年以上 20年未満」が 25.7%と最も多く、以下、「不明」が 19.9%、「5年以上 10年未満」が 14.9%、「20年以上 30年未満」が 12.9%、となっている。

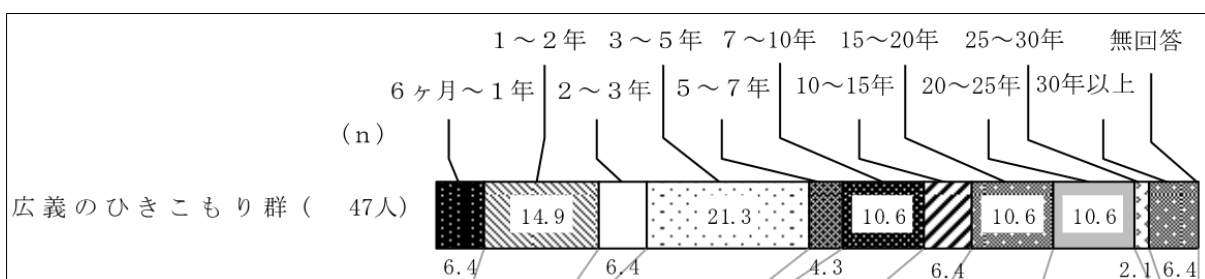
【参考】該当者のひきこもり期間

- (内閣府『平成 27 年 若者の生活に関する調査 (満 15 歳～満 39 歳が対象)』より)



上記平成 27 年度の内閣府調査では、ひきこもり期間が「7 年以上」の者が最も多く 34.7% であり、次いで「3～5年」の者が 28.6%であった。

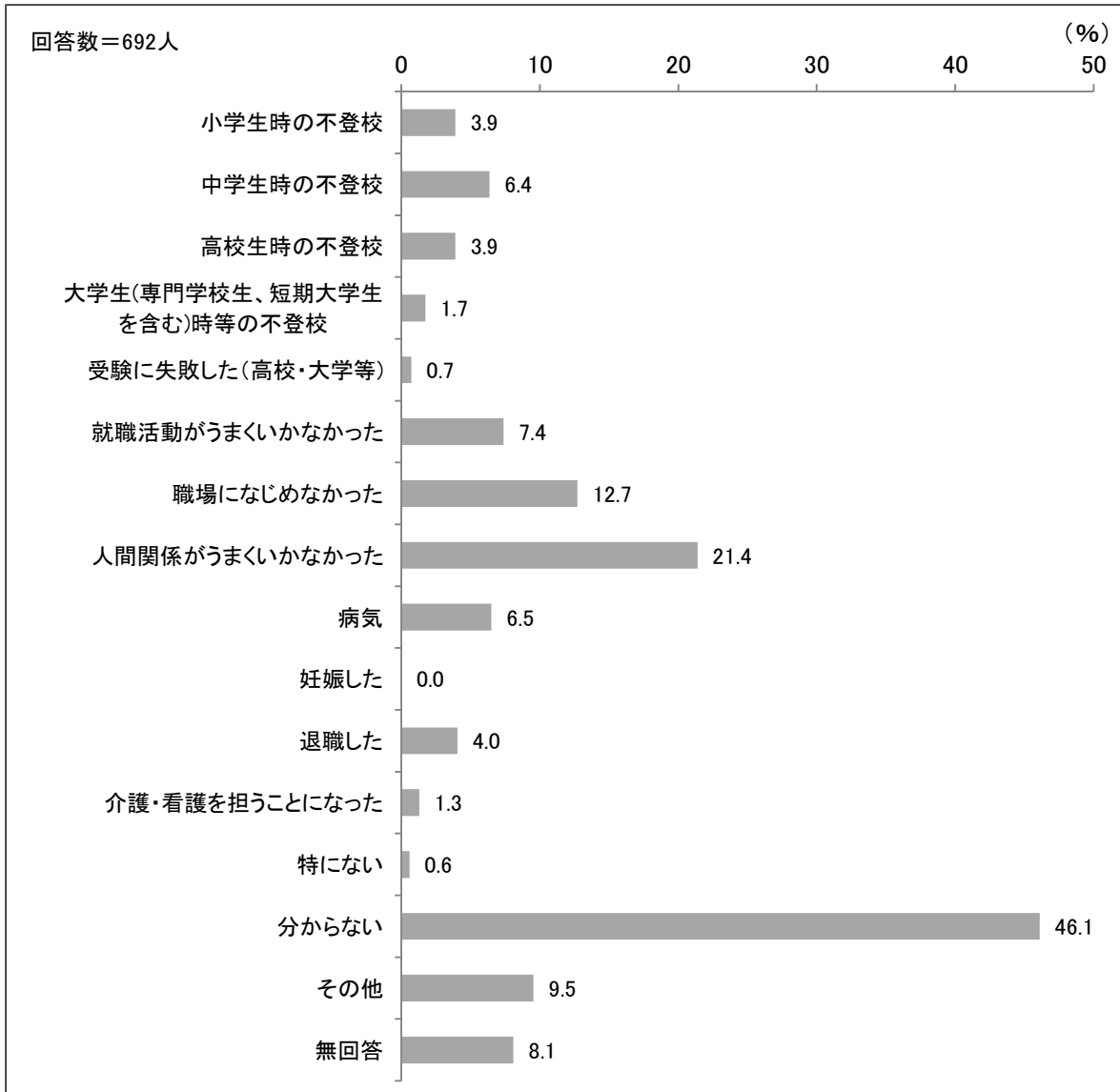
- (内閣府『平成 30 年 生活状況に関する調査 (満 40 歳～満 64 歳が対象)』より)



上記平成 30 年度の内閣府調査では、ひきこもり期間が「7 年以上」の者が最も多く 46.7% であり、次いで「3～5年」の者が 21.3%であった。

(9) その方がひきこもりになったきっかけ

問8 その方がひきこもりになったきっかけを教えてください。(複数回答可)



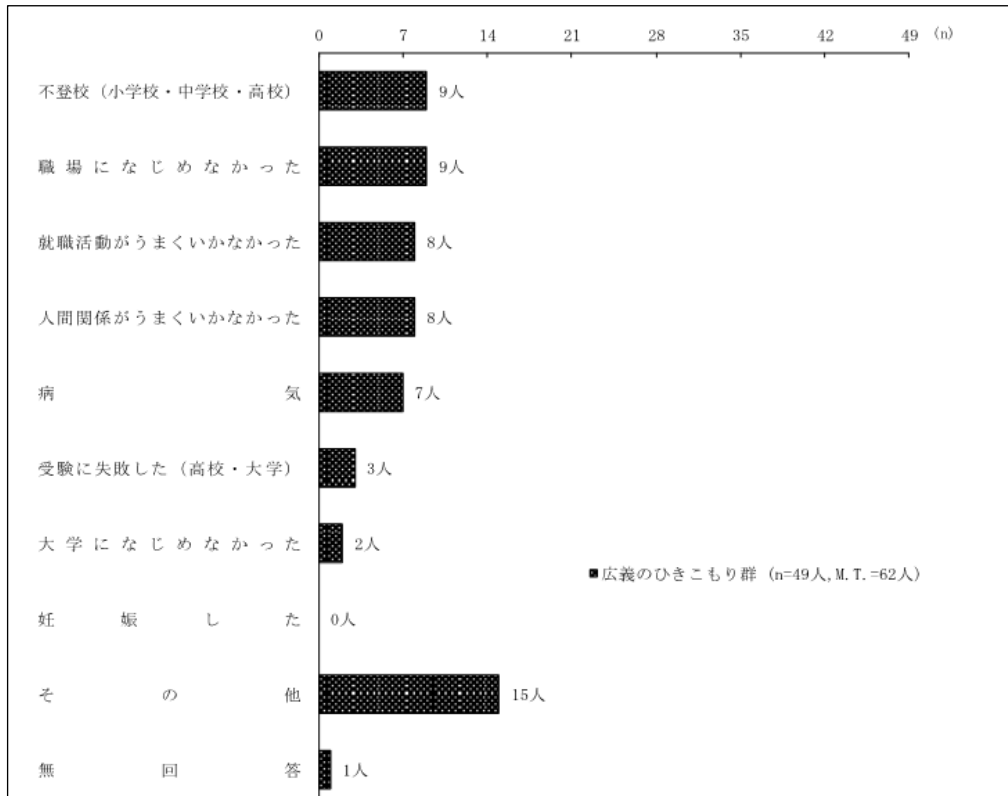
ひきこもりになったきっかけは、「分からない」が 46.1%と最も多く、以下、「人間関係がうまくいかなかった」が 21.4%、「職場になじめなかった」が 12.7%となっている。

「その他」については、「親兄弟など家族が亡くなった」「離婚した(本人もしくは両親)」「交通事故などトラブルを起こした」といった回答があった。

なお、「分からない」との回答が多いことから、個々のひきこもりの人についての把握が難しいことがうかがえる。

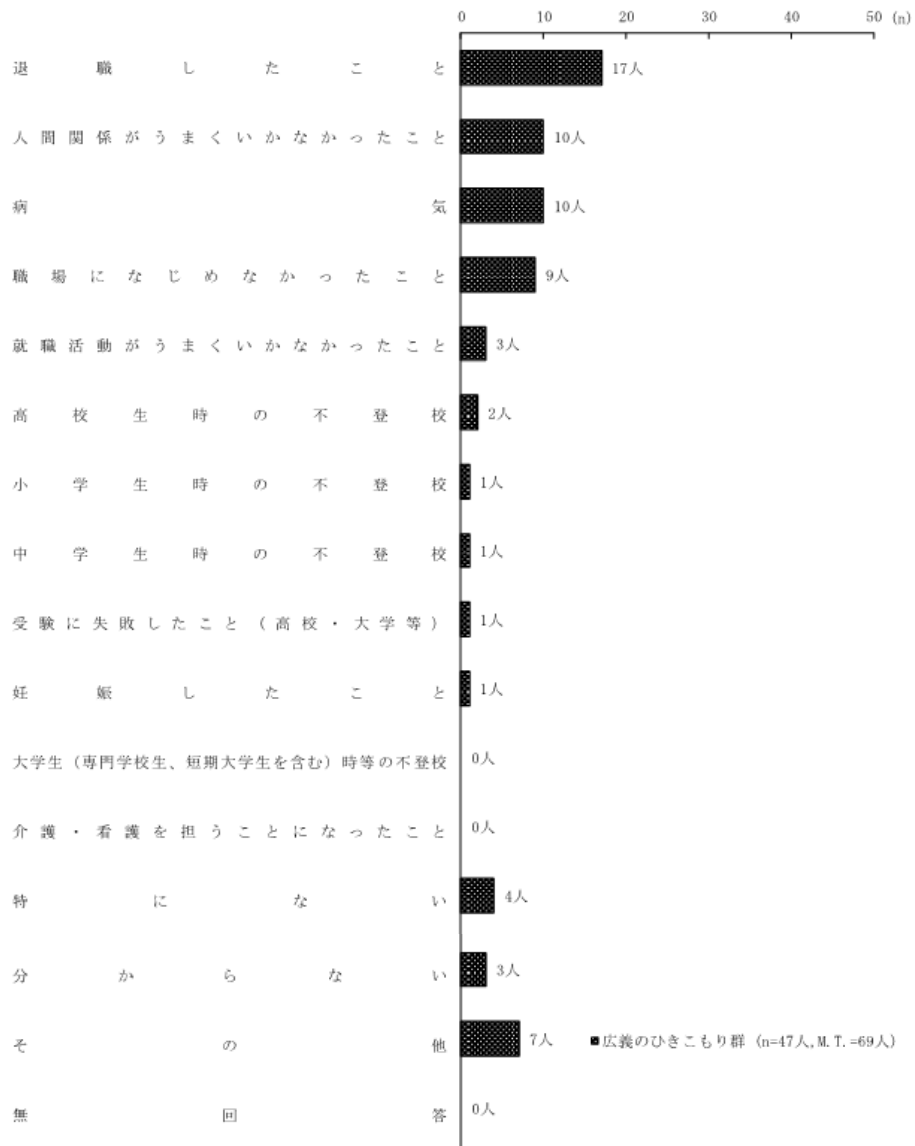
【参考】該当者のひきこもりのきっかけ

■ (内閣府『平成 27 年 若者の生活に関する調査 (満 15 歳～満 39 歳が対象)』より)



上記平成 27 年度の内閣府調査では、ひきこもりのきっかけとして「不登校(小学校・中学校・高校)」、「職場になじめなかったこと」、「就職活動がうまくいかなかったこと」、「人間関係がうまくいかなかったこと」などが多くあがっている。

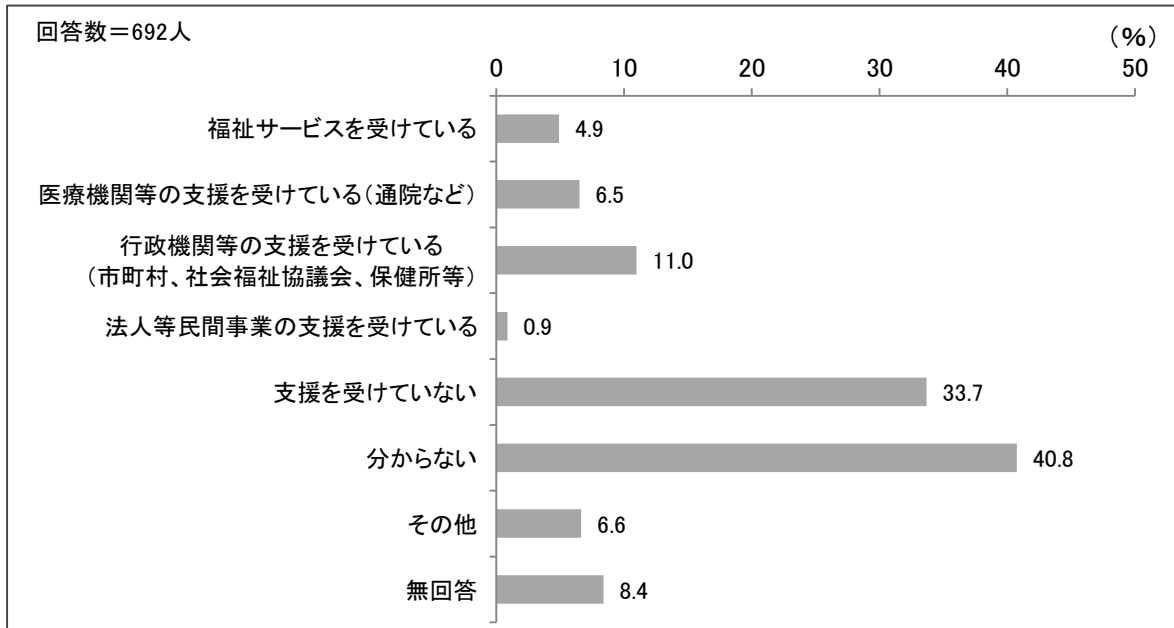
■ (内閣府『平成 30 年 生活状況に関する調査 (満 40 歳～満 64 歳が対象)』より)



上記平成 30 年度の内閣府調査では、ひきこもりのきっかけとして「退職したこと」、「人間関係がうまくいかなかったこと」、「病気」、「職場になじめなかったこと」などが多くあがっている。

(10) 現在の支援の状況

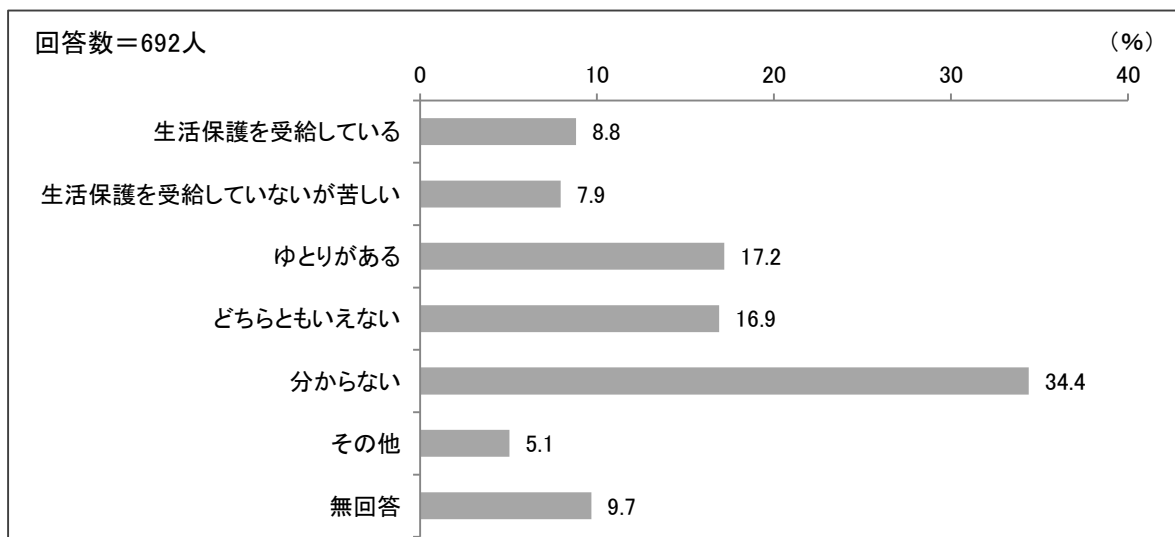
問9 その方の支援の状況について教えてください。(複数回答可)



ひきこもりの人への支援の状況について、「分からない」が 40.8%と最も多く、以下、「支援を受けていない」が 33.7%、「行政機関等の支援を受けている(市町村、社会福祉協議会、保健所等)」が 11.0%となっている。

(11) 「ひきこもりの人」のいる世帯の暮らしぶり

問10 その方の世帯の暮らしぶりについて教えてください。

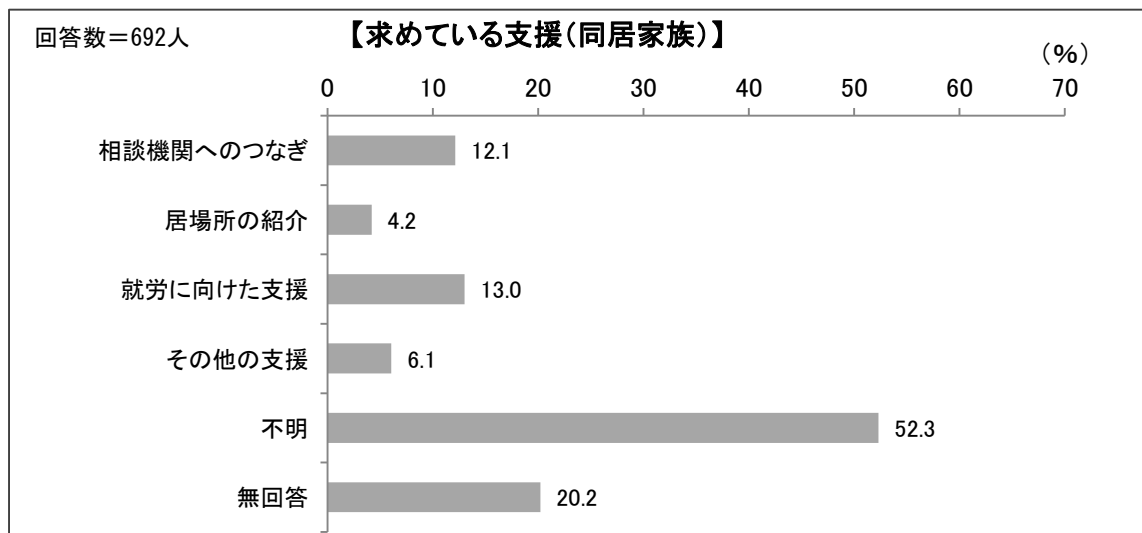
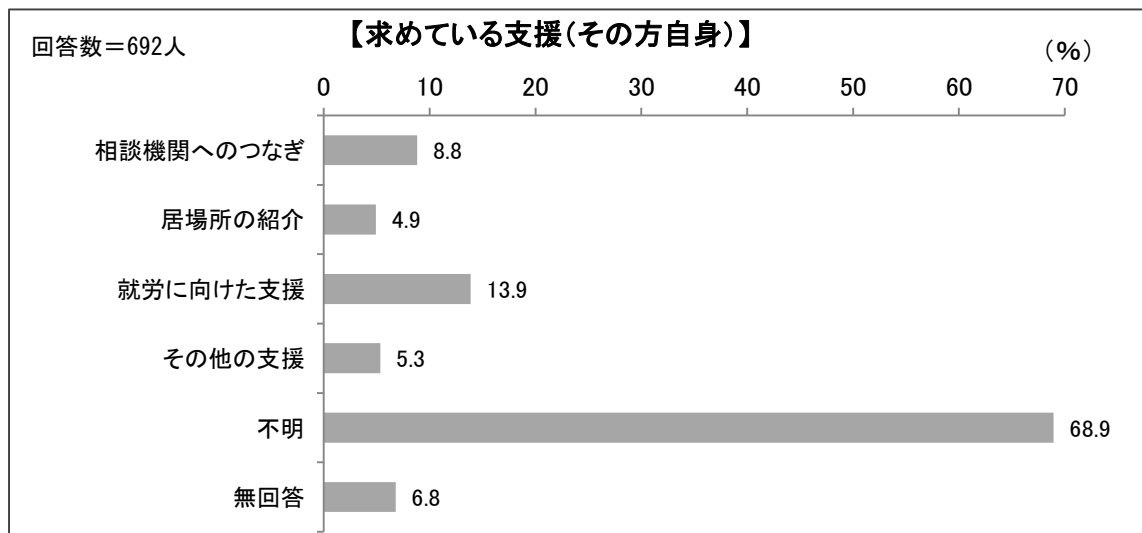


ひきこもりの人の世帯の暮らしぶりについて、「分からない」が 34.4%と最も多く、以下、「ゆとりがある」が 17.2%、「どちらともいえない」が 16.9%となっている。

(12) 「ひきこもりの人」自身や同居家族が求めていると考えられる支援内容

問 11 現在、その方(同居家族)はどのような支援を求めていると考えられますか。

(複数回答可)



ひきこもりの人自身がどのような支援を求めていると考えられるかについては、「不明」が68.9%と最も多く、以下、「就労に向けた支援」が13.9%、「相談機関へのつなぎ」が8.8%となっている。

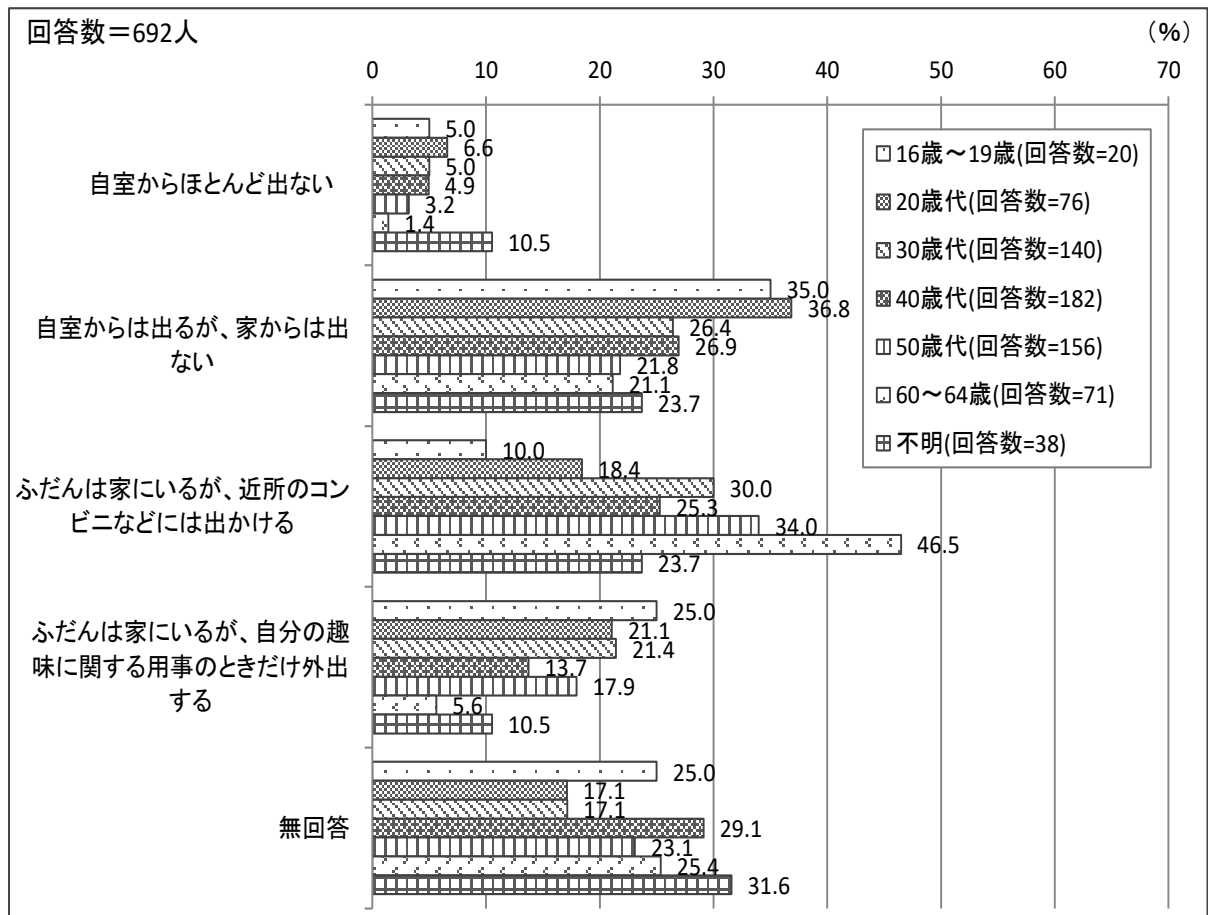
同居家族がどのような支援を求めていると考えられるかについては、「不明」が52.3%と最も多く、以下、「就労に向けた支援」が13.0%、「相談機関へのつなぎ」が12.1%となっている。

(※無回答は除く)

3.2 クロス集計結果(年齢別、同居の有無)

(1) 「年齢別」 該当する方の状況

問5 その方の状況×問2 年齢別

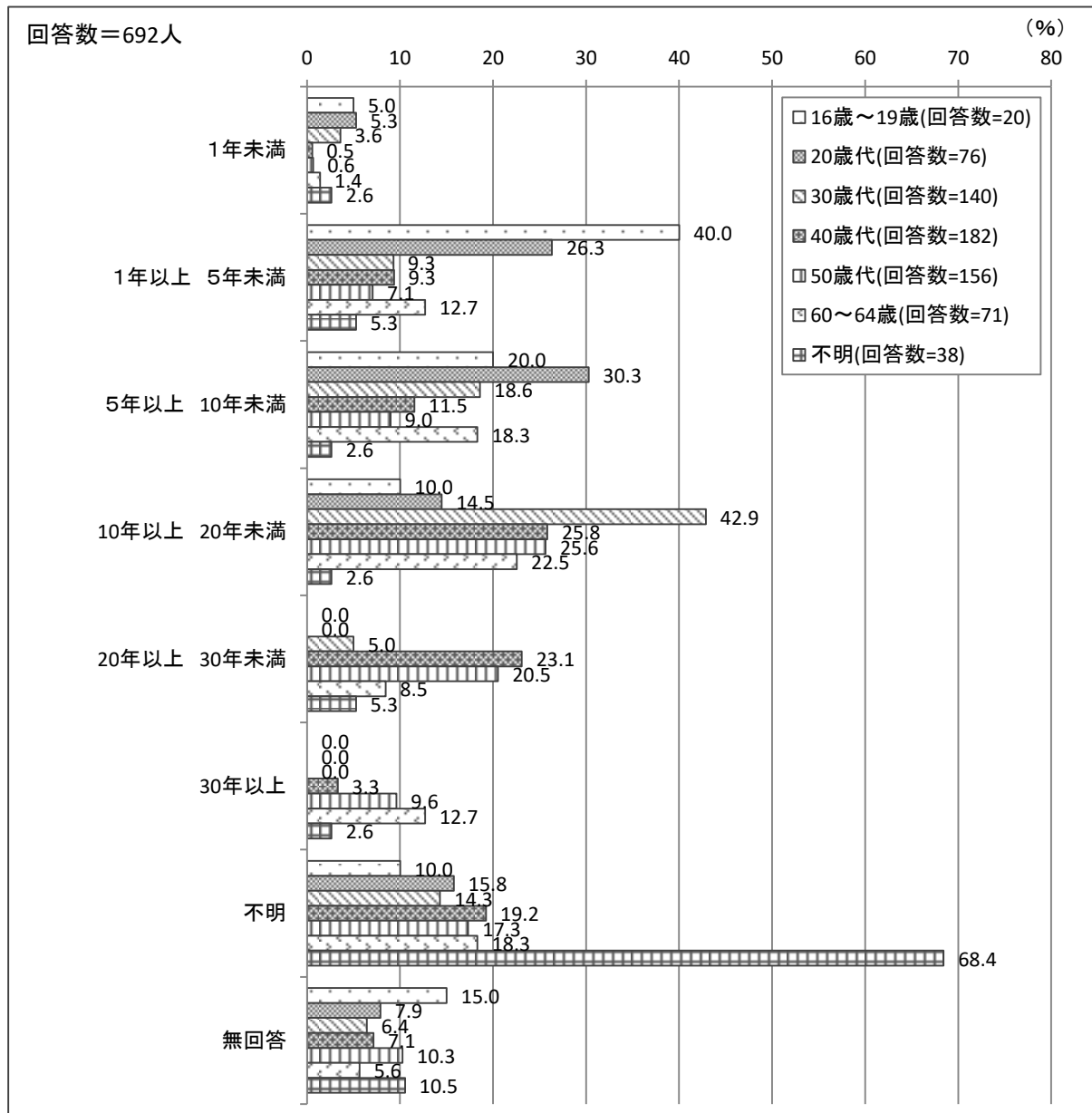


(ひきこもりの)状況を年齢別に見た場合、16歳～19歳および20歳代では「自室からは出るが、家からは出ない」方が多く、それぞれ35.0%、36.8%であった。

一方、50歳代および60～64歳では「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」方が多く、それぞれ34.0%、46.5%であった。

(2) 「年齢別」 ひきこもっている期間

問7 その方のひきこもっている期間×問2 年齢別の状況



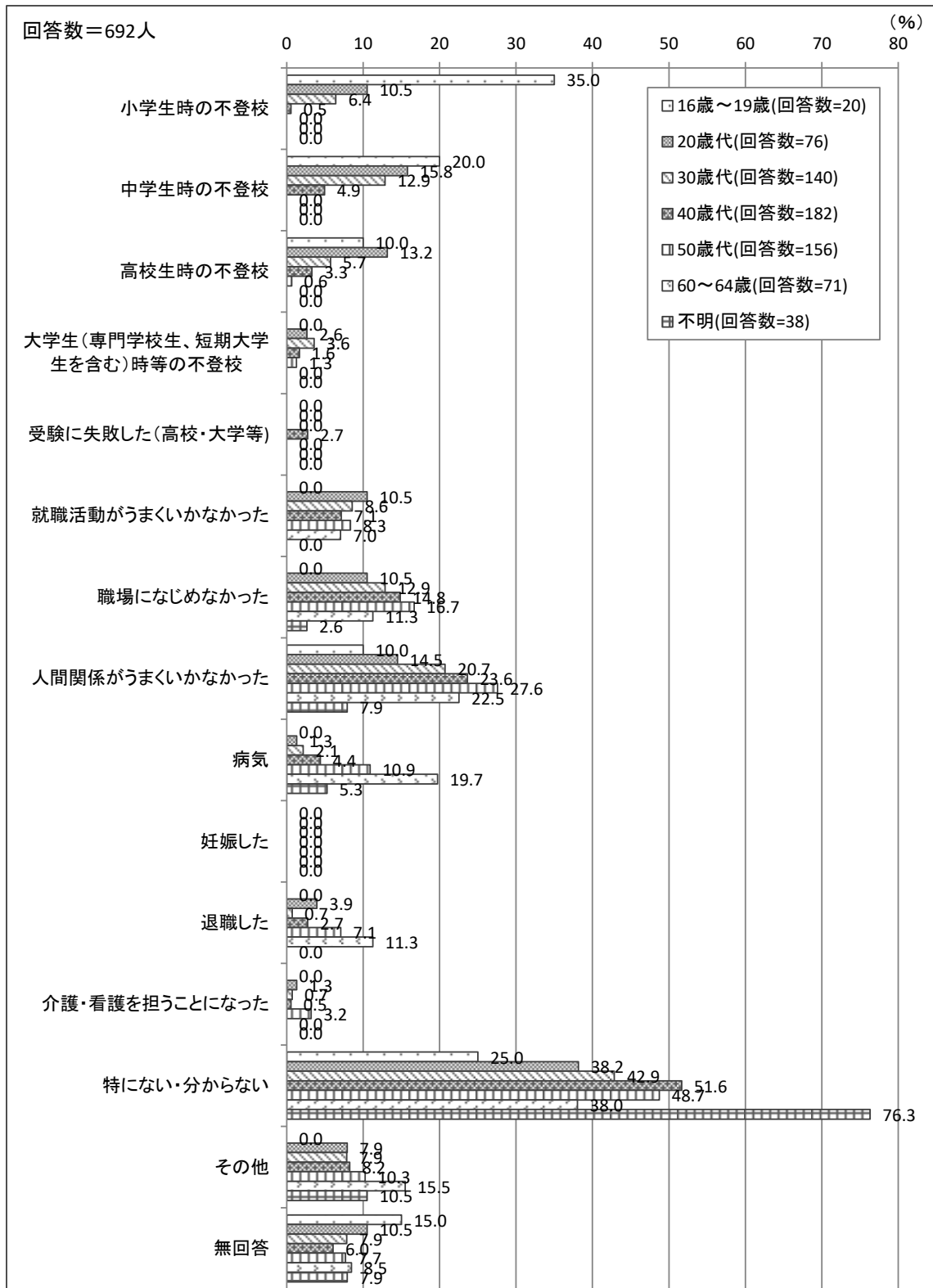
ひきこもっている期間について、年齢別の状況を見ると、16歳~19歳では「1年以上 5年未満」が多く、40.0%であった。

また、20歳代では「5年以上 10年未満」と「1年以上 5年未満」が多く、それぞれ30.3%、26.3%であった。

30歳代では「10年以上 20年未満」が多く、42.9%となっている。

(3) 「年齢別」 ひきこもりになったきっかけ

問8 その方がひきこもりになったきっかけ×問2 年齢別の状況

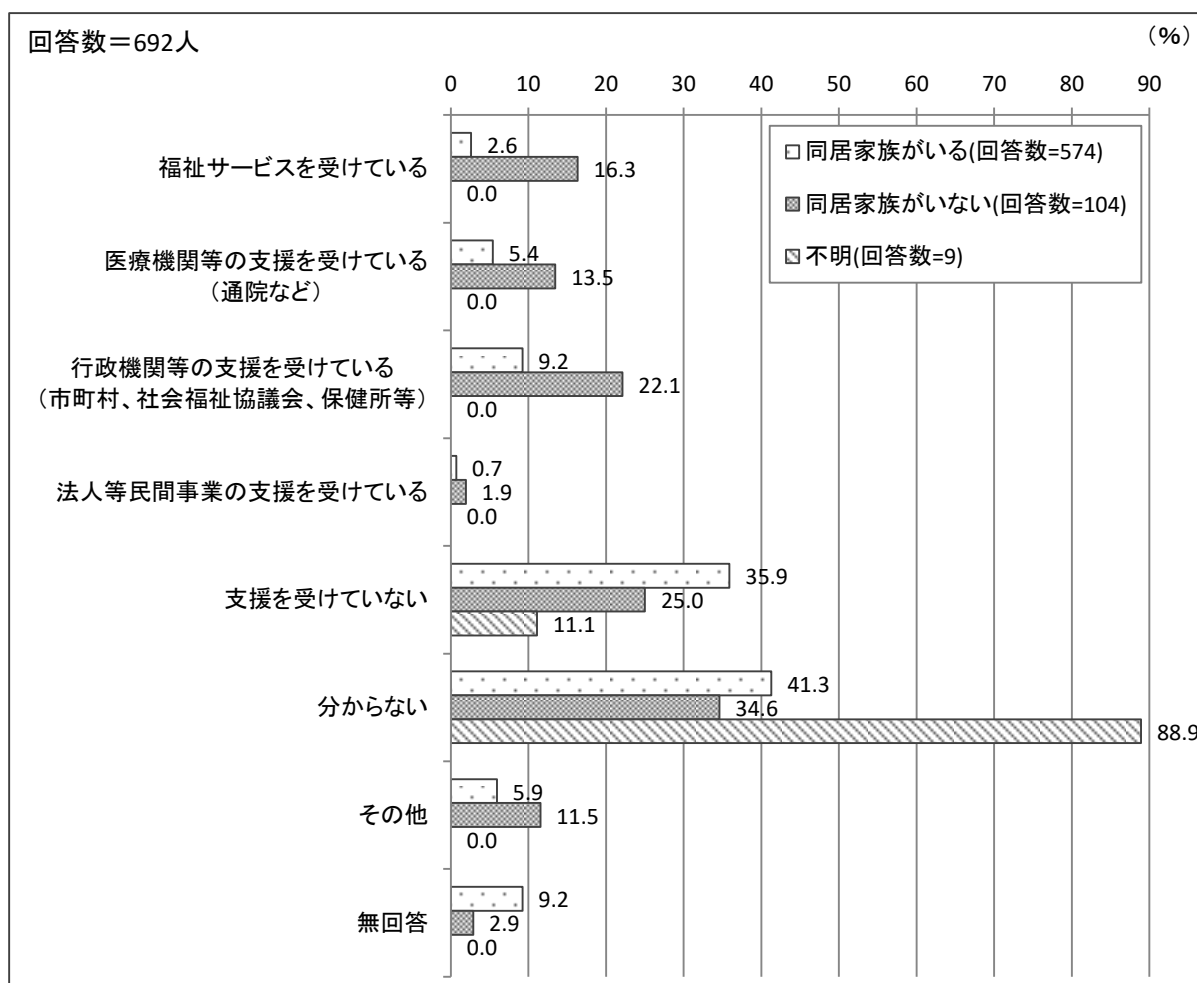


16歳～19歳、および20歳代の方は、学校の不登校がきっかけの場合が多い。

一方で、30歳代、40歳代、50歳代の方の場合は、就職活動や職場、人間関係など仕事に関連することがきっかけとなっているケースが多い。

(4) 「同居の有無別」 現在の支援の状況

問9 その方の支援の状況×問3 同居家族の有無

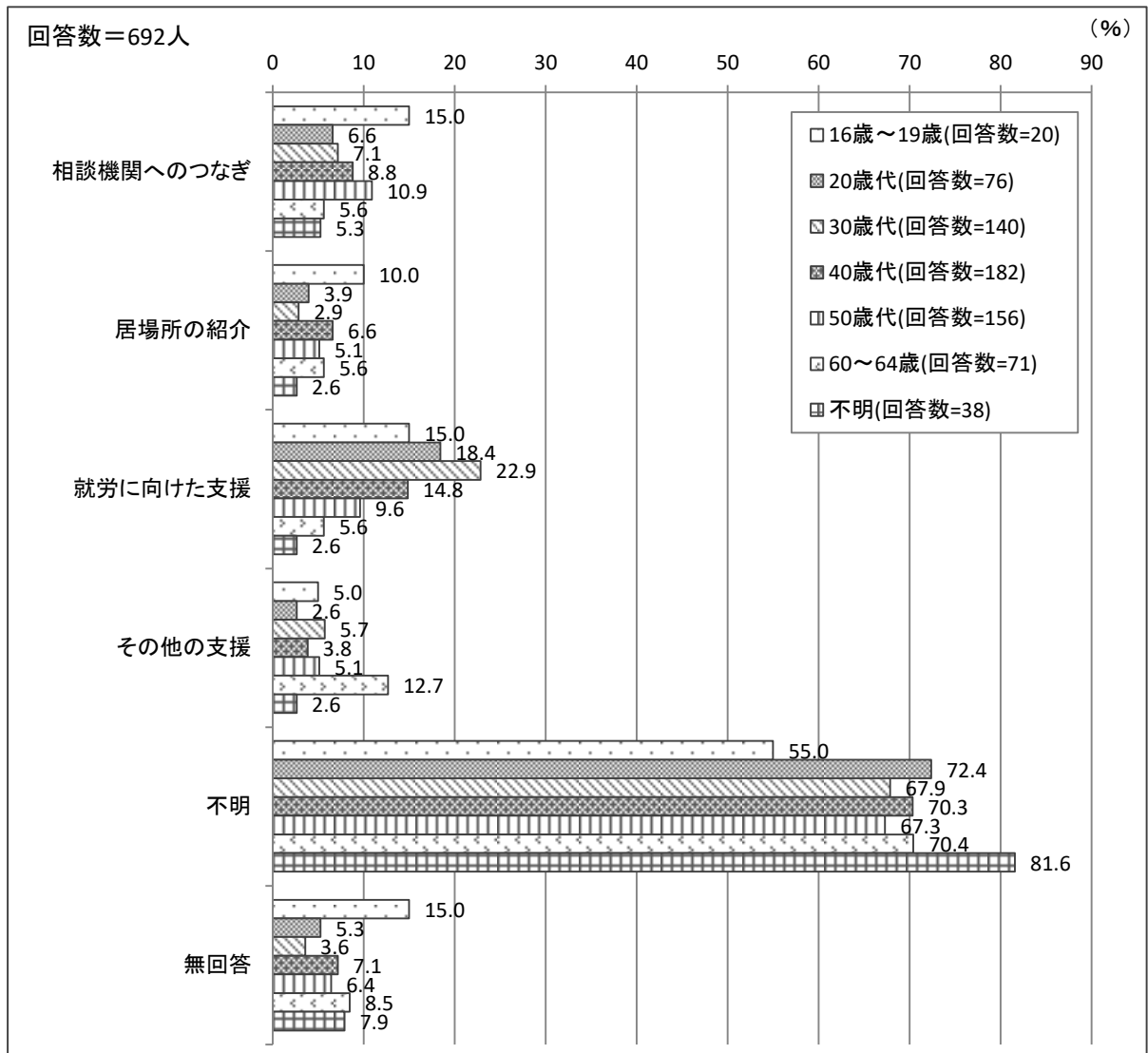


同居家族がいる人のうち、「支援を受けていない」は 35.9%、「分からない」は 41.3%であり、同居者がいない人に占める「支援を受けていない」(25.0%)や「分からない」(34.6%)の割合より高くなっている。

(5) 「年齢別」ひきこもりの人自身や同居家族が求めていると考えられる支援内容

問 11 どのような支援を求めていると考えられるか×問 2 年齢別の状況

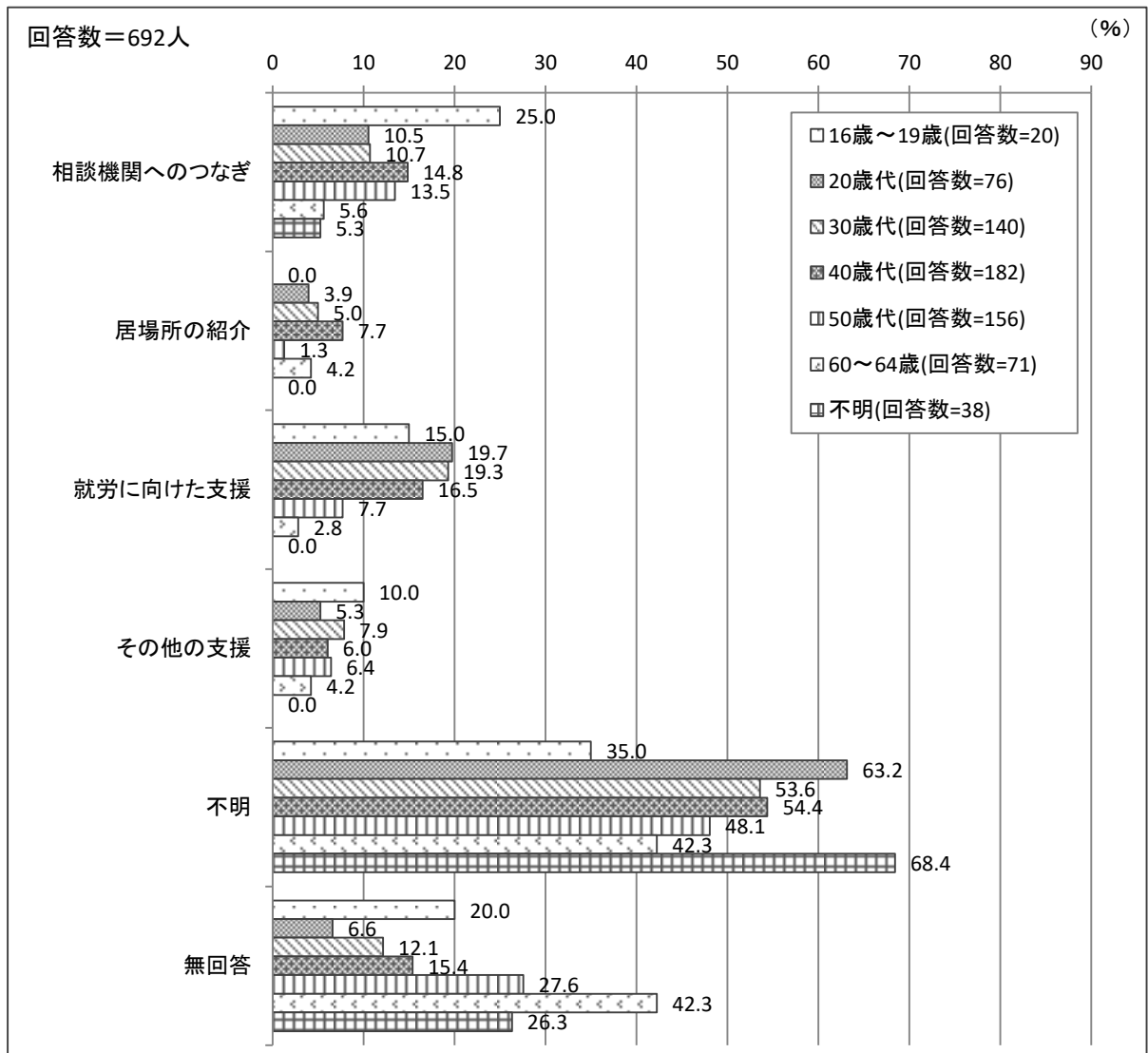
◆その方自身



年齢別にひきこもりの人自身がどのような支援を求めていると考えられるかについては、40歳代までのいずれの年齢層でも、「就労に向けた支援」と回答した割合が高い。

また、16歳~19歳および、50歳代では「相談機関へのつなぎ」と回答した割合も高くなっている。

◆家族の方



ひきこもりの人の年齢別に同居家族がどのような支援を求めていると考えられるかについては、16歳～19歳で、「相談機関へのつなぎ」と回答した割合が高い。

また、ひきこもりの人自身の回答と同じく、40歳代までのいずれの年齢層でも「就労に向けた支援」と回答した割合が高い。

第4章 參考資料

4.1 調査票（総括票）

令和2年度 ひきこもりに関する実態把握調査アンケート 総括票

あなたの担当地区についてお尋ねします。かつこ内に記入をしてください。

- 1 あなたの担当の地区はどちらですか？
⇒（ 市・町・村 地区）
- 2 担当地区の世帯数を教えてください。⇒（約 世帯）

問1 あなたが担当する地区に、現在「ひきこもりの人」はいますか。

（数字に○をつけてください。また、1の場合はかつこに把握している人数を記入してください。）

- 1 いる（ ）人 2 いない 3 分からない

⇒「1」を選択した方は、問2へお進みください。

⇒「2」または「3」を選択した方は、問3へお進みください。

（問1で「1いる」を選択した方がお答えください。）

問2 ひきこもりの人の支援で困っていることはありますか。該当するものすべてに○をつけてください。

- 1 困りごとはない。
- 2 かかわりを拒否される。
- 3 一人では抱えきれないと感じる。
- 4 ひきこもりに関する知識や支援方法がわからない。
- 5 どこに相談していいかわからない。
- 6 相談したが、十分対応してもらえなかった。
- 7 その他（ ）

（全員の方がお答えください。）

問3 ひきこもりに関する支援策で、あなた自身の活動や行政に必要と思われるものを教えてください。（複数回答可）。

- 1 個別のかつ長期的に訪問等でひきこもりの人やその家族にかかわる。
- 2 関係機関同士の情報の共有や連携の強化。
- 3 支援する側の知識・スキル向上のための研修会の実施。
- 4 身近なひきこもり相談窓口を設置し、その窓口を広く広報する。
- 5 家族の方への支援を充実させる。（家族対象の研修会など家族が対応を学ぶ等）
- 6 家族同士が気軽に集まり、何でも話せる居場所が必要である。
- 7 ひきこもりの人同士が気軽に集まれる居場所が必要である。
- 8 ひきこもりの人の自立に向けた生活訓練や社会復帰訓練ができる場所の充実。
- 9 ひきこもりに関して、一般住民への正しい理解と知識の普及。
- 10 不登校の子どもへの支援を充実させて、ひきこもり状態に移行しないようにする。
- 11 その他（ ）

○問1で「1」を選択した方 ⇒ 引き続き、別紙「ひきこもりの人の調査個別票」にご記入ください。

3人分のアンケート用紙を添えてありますが、アンケート用紙が足りない場合は、下記までご連絡ください。

【株式会社工業市場研究所 担当：小林義和】（電話：03-6459-0165）

○問1で「2」または「3」を選択した方 ⇒ 調査は終了です。ご協力ありがとうございました。

お送りした調査票は（総括票）（個別票）ともに、回答の有無にかかわらず、すべて返信用封筒に入れてご返信ください。

4. 2 調査票（個別票）**ひきこもりの人の調査個別票（ 人目）**

該当する番号に○をつける、または自由記載をお願いします。

- ・ 1世帯に2人以上おられる場合は、1人ずつ別葉にご記入ください。
- ・ 分かる範囲でご記入ください。

※具体的なお名前等を記載していただく必要はありません。

1 該当する方の性別を教えてください。

- 1 男
- 2 女
- 3 不明

2 該当する年齢を教えてください。※お分かりでない場合は推測で結構です。

- 1 16歳～19歳
- 2 20歳代
- 3 30歳代
- 4 40歳代
- 5 50歳代
- 6 60～64歳
- 7 不明

3 その方の家族の状況について教えてください。同居者はいますか。

- 1 あり
- 2 なし
- 3 不明

4 同居者がいる場合

- (1) その方はどなたと一緒に住んでいますか。該当するものすべてに○をつけてください。

- 1 父
- 2 母
- 3 兄弟姉妹
- 4 祖父母
- 5 配偶者
- 6 子
- 7 その他 ()
- 8 不明

(2) 同居家族の中に、その方以外にひきこもり状態にある方がいれば、教えてください。(複数回答可)。

- 1 父
- 2 母
- 3 兄弟姉妹
- 4 祖父母
- 5 配偶者
- 6 子
- 7 その他 ()

5 その方の状況を教えてください。

- 1 自室からほとんど出ない
- 2 自室からは出るが、家からは出ない
- 3 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- 4 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する

6 あなたがその方の存在を知ったきっかけについて教えてください。該当するものすべてに○をつけてください。

- 1 あなた自身の訪問等の活動
- 2 民生委員・児童委員児童委員協議会
- 3 近所からの情報・相談
- 4 本人・家族からの相談
- 5 学校からの情報
- 6 その他 ()

7 その方のひきこもっている期間について教えてください。

- 1 1年未満
- 2 1年以上 5年未満
- 3 5年以上 10年未満
- 4 10年以上 20年未満
- 5 20年以上 30年未満
- 6 30年以上
- 7 不明

8 その方がひきこもりになったきっかけを教えてください。該当するものすべてに○をつけてください。

- 1 小学生時の不登校
- 2 中学生時の不登校
- 3 高校生時の不登校
- 4 大学生（専門学校生、短期大学生を含む）時等の不登校
- 5 受験に失敗した（高校・大学等）
- 6 就職活動がうまくいかなかった
- 7 職場になじめなかった
- 8 人間関係がうまくいかなかった
- 9 病気
- 10 妊娠した
- 11 退職した
- 12 介護・看護を担うことになった
- 13 特にない
- 14 分からない
- 15 その他（具体的に： _____）

9 その方の支援の状況について教えてください。該当するものすべてに○をつけてください。

- 1 福祉サービスを受けている
- 2 医療機関等の支援を受けている（通院など）
- 3 行政機関等の支援を受けている（市町村、社会福祉協議会、保健所等）
- 4 法人等民間事業の支援を受けている
- 5 支援を受けていない
- 6 分からない
- 7 その他（ _____）

10 その方の世帯の暮らしぶりについて教えてください。

- 1 生活保護を受給している
- 2 生活保護を受給していないが苦しい
- 3 ゆとりがある
- 4 どちらともいえない
- 5 分からない
- 6 その他（ _____）

11 現在、その方（同居家族）はどのような支援を求めていると考えられますか。
その方自身、同居家族それぞれについて、（複数回答可）。

◆その方自身

- 1 相談機関へのつながり
- 2 居場所の紹介
- 3 就労に向けた支援
- 4 その他の支援
()
- 5 不明

◆同居家族

- 1 相談機関へのつながり
- 2 居場所の紹介
- 3 就労に向けた支援
- 4 その他の支援
()
- 5 不明

※ 居場所とは、ひきこもりの人同士が気軽に集まって過ごすことができる場所を言います。

⇒恐れ入りますが、記入漏れがないかご確認をお願い致します。
ご協力ありがとうございました。

お送りした調査票は（総括票）（個別票）ともに、回答の有無にかかわらず、すべて返信用封筒に入れてご返信ください。

高知県地域福祉部地域福祉政策課

〒780-8570 高知市丸ノ内1-2-20